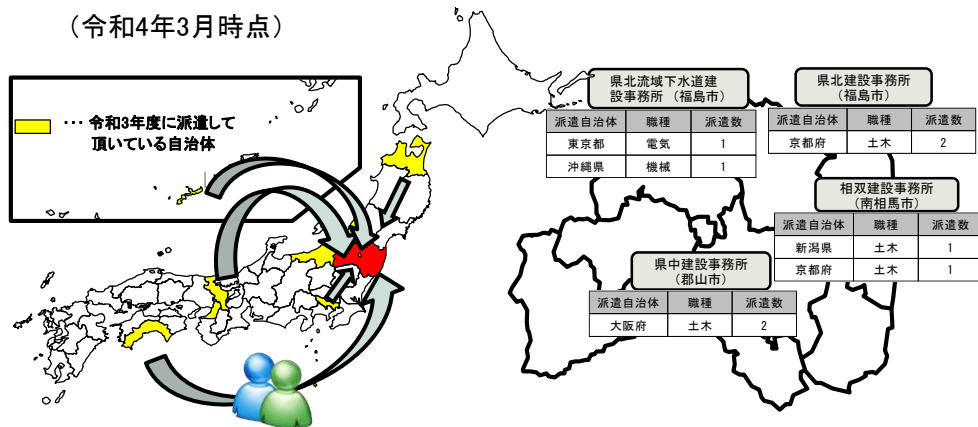


自治法派遣職員の配置状況

全国知事会を通じて職員派遣要請を行い、他県等から支援していただいています。

今年度は、令和元年東日本台風関連8名（1都2府2県）の方が最前線で本県の復旧を支えていただいています。

（令和4年3月時点）



令和元年東日本台風関連 災害復旧、防災・減災対策

自治法派遣職員の配置実績(令和4年3月)

事務所名	派遣自治体	人数
県北建設事務所(福島市)	青森県	1名
	山形県	1名
	京都府	7名
	高知県	1名
県中建設事務所(郡山市)	大阪府	8名
	大分県	1名

事務所名	派遣自治体	人数
相双建設事務所(南相馬市)	新潟県	3名
	京都府	2名
	長崎県	2名
いわき建設事務所(いわき市)	鹿児島県	1名
県北流域下水道建設事務所(福島市)	秋田県	1名
	東京都	2名
	岐阜県	1名
	沖縄県	2名



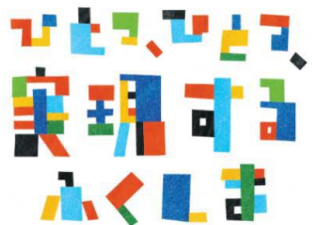
福島県土木部
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16 電話:024-521-7886
メールアドレス: dobokukikaku@pref.fukushima.lg.jp
■福島県土木部 令和元年東日本台風関連情報は、
土木企画課ホームページからご覧下さい。
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/>



リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



2022年度版
福島県土木部



2022年3月31日

承諾を得て複製している国土地理院発行の電子地形図(タイル)をさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

目次

令和元年東日本台風の気象状況

令和元年東日本台風の概要
(参考)福島県を北上する阿武隈川の特徴
ダムによる洪水調節の状況

P. 2~4

被害状況

福島県内の被害状況
土木施設の被害状況
主な被災箇所(河川、道路、砂防、下水道)

P. 7
P. 7~8
P. 9~12

公共土木施設等災害査定

P. 13

公共土木施設等復旧状況

公共土木施設等復旧状況
主な復旧箇所(中通り)
主な復旧箇所(浜通り)
主な復旧箇所(会津地方)
県北浄化センター被災対応と水質改善の取組について

P. 14
P. 15~16
P. 17~18
P. 18~19
P. 19~24

福島県緊急水災害対策プロジェクト

P. 25~48

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

P. 49~50

流域治水の取組

P. 51~56

市町村への支援

P. 57~58

自治法派遣職員

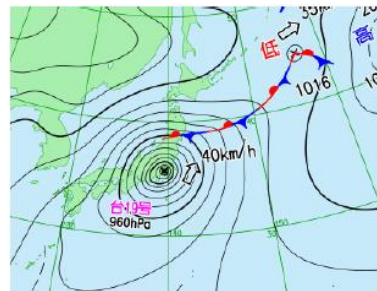
令和元年東日本台風の気象状況

令和元年東日本台風の気象状況

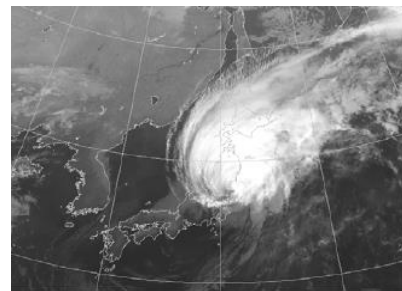
令和元年東日本台風(台風第19号)の概要

福島県では、10月11日から前線の影響で雨が降り出し、12日には令和元年台風19号の接近により昼過ぎから激しい雨が降り、特に台風の接近・通過に伴い、12日夕方から13日未明にかけては非常に激しい雨となり、局地的には猛烈な雨となった。11日15時から13日6時までの総雨量は、**福島県の広い範囲で200mm以上の大雨**となり、川内445.5mm、福島市鷲倉382.5mm、白河373.0mmと**10月1か月の平年値の2~3倍の雨量**となった。

この台風による大雨や暴風により、人的被害や、阿武隈川などの決壊による住家の床上・床下浸水、土砂崩れによる住家の全壊が発生するなど、甚大な被害となった。

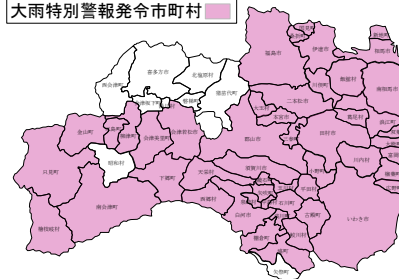


天気図(10月12日21時頃)(出典:気象庁HP)



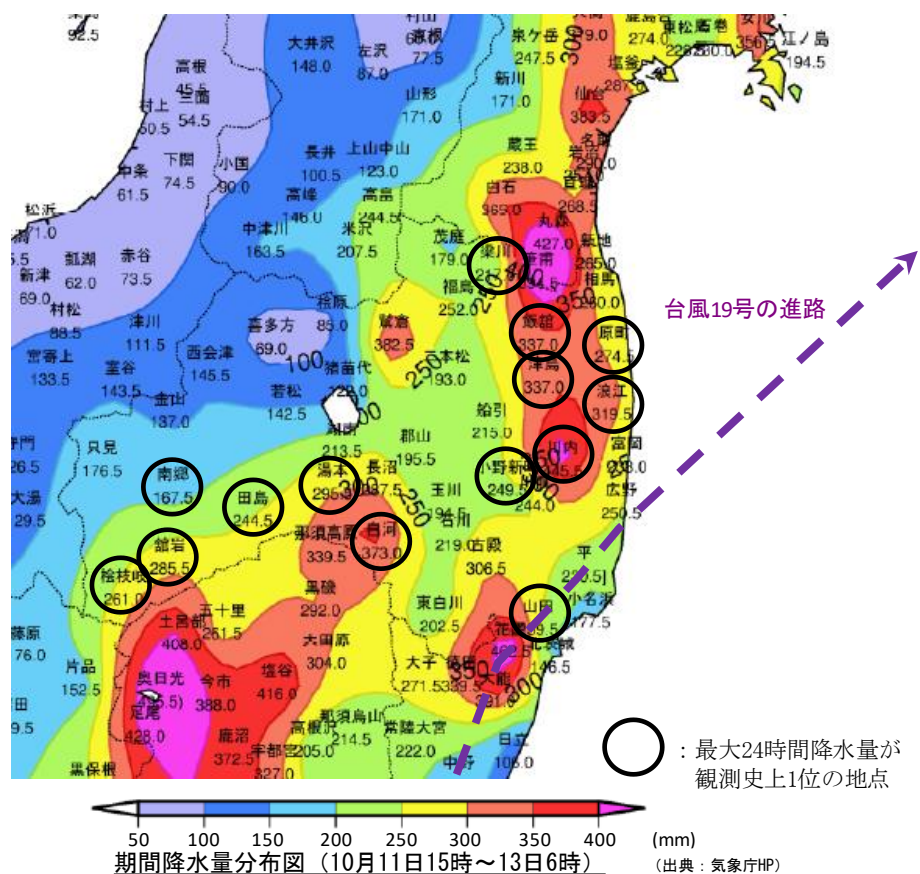
気象衛星画像(10月13日1時頃)(出典:気象庁HP)

大雨特別警報発令市町村



中通り地方: 矢祭町を除く28市町村
浜通り地方: 13市町村全て
会津地方: 会津若松市、柳津町、三島町、金山町、
会津美里町、下郷町、南会津町、只見町、
檜枝岐村の9市町村
計: 県内59市町村中50市町村で発令

※初動対応と応急復旧の情報は、2020年度版をご覧ください。
建設業等関連団体との連携、地域住民への見える化・見せる化の情報は、2021年版をご覧ください。



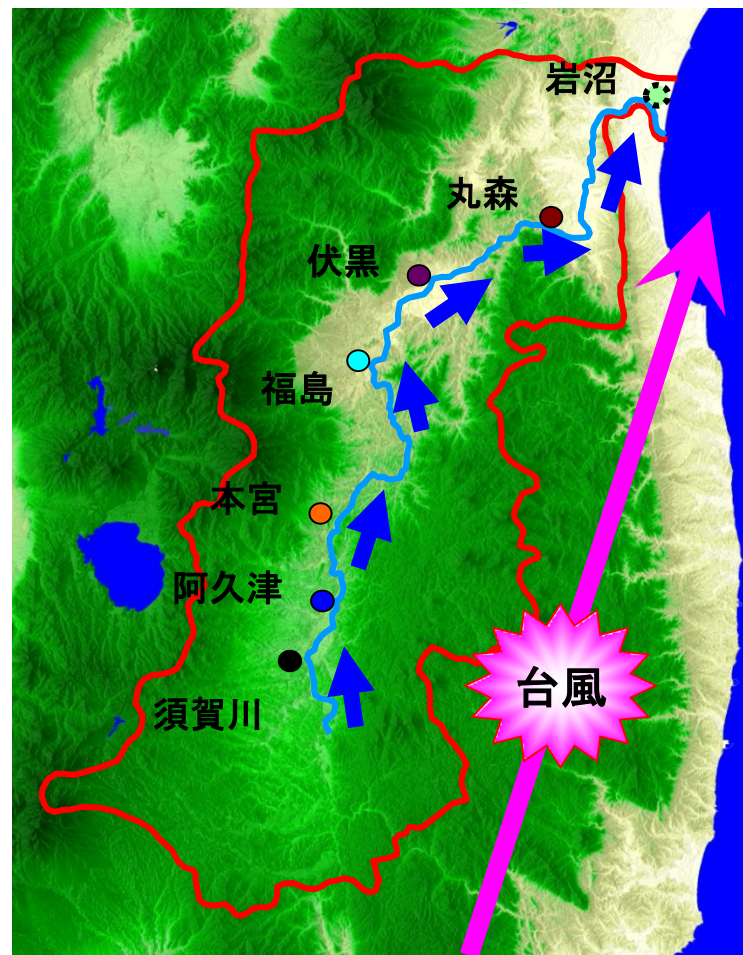
最大24時間降水量(観測史上1位)(10月12~13日)

観測地点名	市町村	降水量(mm)	統計開始年
川内	川内村	441.0	1976年
白河	白河市	371.0	1964年
津島	浪江町	332.0	1977年
飯館	飯館村	331.5	1976年
浪江	浪江町	314.5	1976年
湯本	天栄村	293.0	1988年
館岩	南会津町	279.0	1978年
原町	南相馬市	271.0	1976年
檜枝岐	檜枝岐村	257.5	1978年
山田	いわき市	257.0	2009年
小野新町	小野町	247.0	1976年
田島	南会津町	239.5	1976年
梁川	伊達市	213.5	1976年
南郷	南会津町	164.5	1976年

※県内40地点のうち14地点で観測

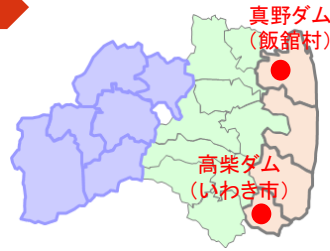
【参考】福島県を北上する阿武隈川の特徴

- ・阿武隈川は南から北へ流下しており、洪水の流下方向と台風の進路が一致しやすいため、台風性降雨の場合には洪水流出量が増大する傾向がある。
- ・台風の進路と洪水の流下方向が重なることで上流部から下流部までの最大流量がほぼ同時期に発生し、広範囲にわたる被害が一時期に集中する傾向がある。



出典: 国土交通省当補記地方整備局福島河川国道事務所2020業務概要P8

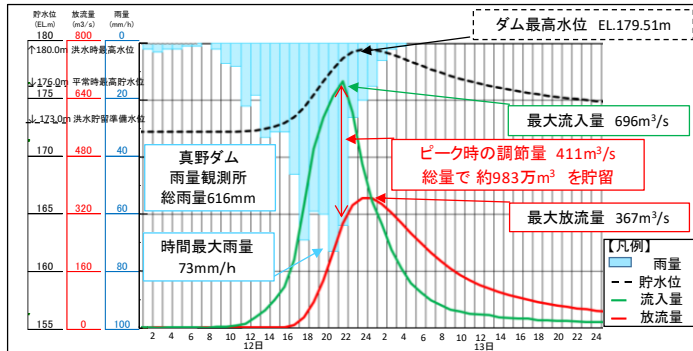
ダムによる洪水調節の状況



令和元年東日本台風の大雨による出水について、県管理ダム施設の洪水調節により、下流域の洪水被害が軽減されました。

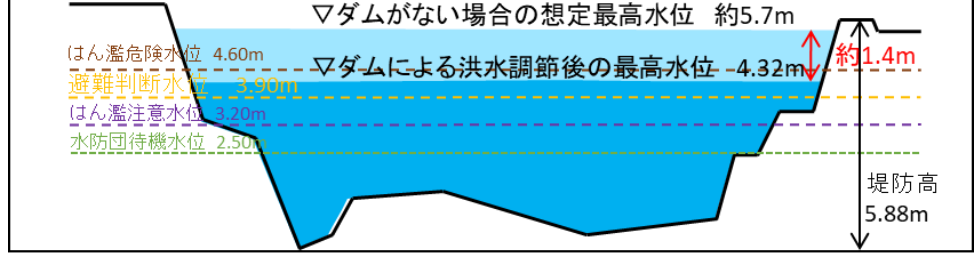
二級河川真野川水系真野川真野ダムの洪水調節

- 真野ダム(相馬郡飯館村)において、10月13日まで616mmの雨が降り、最大流入量 $696\text{m}^3/\text{s}$ 、最大放流 $367\text{m}^3/\text{s}$ に達しました。総雨量、最大流入量及び最大放流量ともに、平成4年度からのダム管理開始以降最大を記録しました。
- 洪水調節を行ったことで、下流の小島田堰水位観測所(南相馬市)では、平成4年度からのダム管理開始以降最高の河川水位 4.32m を観測しましたが、ダムがないときの最高水位は約 5.7m と想定され、**水位を最大で約 1.4m 低下させることができました。**



真野ダム洪水調節および降雨の状況

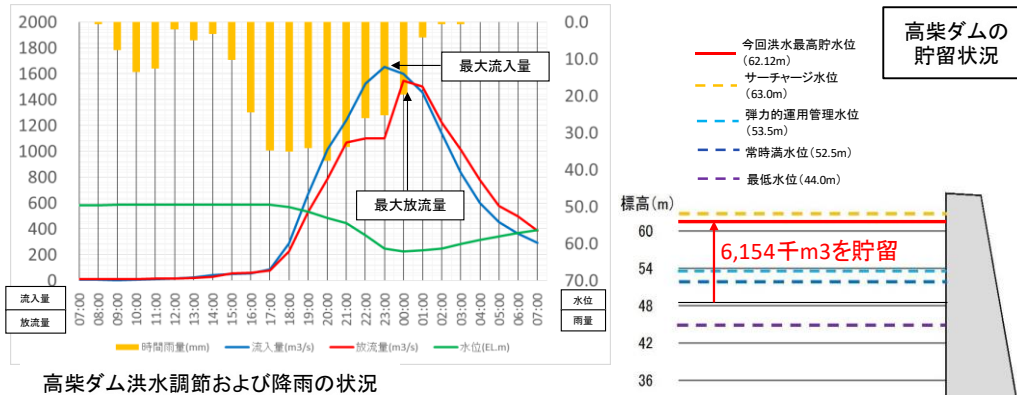
ダムがない場合、河川水位が最高で約 5.7m (約 1.4m 上昇)となり、「はん濫危険水位」を超過、さらに堤防高まで約 0.2m まで達したと想定されます。



河川断面図(小島田堰水位観測所付近)

二級河川鮫川水系鮫川高柴ダムの洪水調節

- 高柴ダム(いわき市)において、令和元年東日本台風により10月13日まで 320mm の雨が降り、最大 $1,711\text{m}^3/\text{s}$ の流入量がありました。しかし、ダムに水を貯め最大放流量を $1,660\text{m}^3/\text{s}$ にすることにより、下流の洪水被害を防ぐことができました。
- ダムに貯まった水は、 **$6,154\text{km}^3$** 、東京ドーム約5杯分にもなりました。



高柴ダム洪水調節および降雨の状況



福島県内の被害状況

■被害状況（福島県災害対策課調 令和4年1月14日現在）

● 人的被害	
死者	: 40 人
行方不明者	: 0 人
重傷者	: 1 人
軽傷者	: 58 人

● 住宅被害	
床上浸水	: 1,022 棟
床下浸水	: 430 棟
全壊	: 1,434 棟
半壊	: 12,010 棟
一部損壊	: 7,007 棟

土木施設の被害状況

■土木部所管施設の被害状況（福島県土木部調べ令和4年3月7日現在）

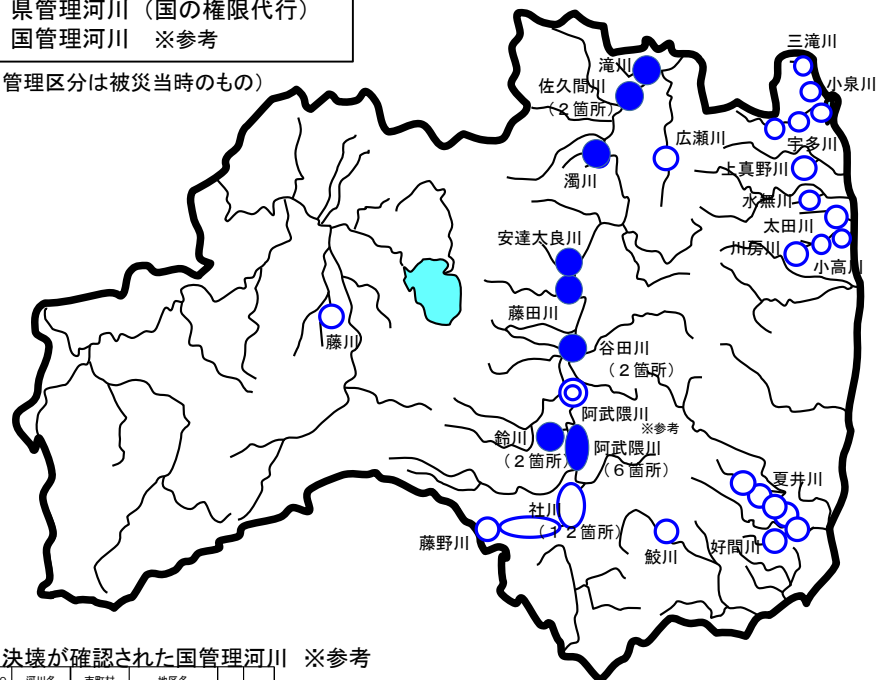
● 県管理道路	通行止めが最大で378箇所発生、377箇所解除済み。（規制継続 1箇所_八溝山線）
● 県管理河川	破堤箇所 49箇所（23河川 17市町村） 内、県対応 33箇所（15河川 10市町村）：応急対策完了（R元.11.7） 国直轄権限代行対応 16箇所（8河川 8市町村）：応急対策完了（R元.11.21）
● 土砂災害	土砂崩れ発生箇所 152件（21市町村）
● 港湾・漁港施設	港湾：被災箇所 4箇所（2港湾）4箇所復旧完了 漁港：被災箇所 13箇所（3漁港）13箇所復旧完了
● 下水道施設	県北浄化センター（国見町）水没のため機能不全状態 → R4.3月復旧完了見込み
● 県営住宅	床上浸水 5団地144戸、床下浸水 3団地 : 復旧完了

令和元年東日本台風による県管理河川堤防の決壊箇所

（全49箇所）

- ：県管理河川
- ：県管理河川（国の権限代行）
- ◎：国管理河川 ※参考

（※管理区分は被災当時のもの）



■決壊が確認された国管理河川 ※参考

NO.	河川名	市町村	地区名	左右岸	延長(m)
◎ 1	阿武隈川	須賀川市	浜尾	左岸	50

■決壊が確認された河川一覧（県管理河川）

NO.	河川名	市町村	地区名	左右岸	延長(m)
● 1	濁川	福島市	郷野目	左岸	15
○ 2	広瀬川	伊達市	月館町下手渡	左岸	80
○ 3	滝川	梁川町二野袋		右岸	82
● 4	佐久間川	桑折町	伊達崎	右岸	35
● 5			伊達崎	左岸	10
● 6	安達太良川	本宮市	本宮	左岸	15
● 7	谷田川	郡山市	下行合	右岸	40
● 8			上行合	左岸	30
● 9	藤田川		日和田	左岸	50
● 10	鈴川	鏡石町	河原	右岸	34
● 11			河原	右岸	69
● 12	阿武隈川		河原	左岸	97
● 13			諏訪町	左岸	100
● 14		玉川村	小高	右岸	50
● 15		矢吹町	鎌ヶ岡	左岸	150
● 16			中沖	左岸	100
● 17			明新東	左岸	200

NO.	河川名	市町村	地区名	左右岸	延長(m)
○ 18	藤野川	白河市	関辺	左岸	45
○ 19	社川		表郷之内	左岸	65
○ 20			表郷中寺	左岸	10
○ 21			表郷高木	右岸	90
○ 22			表郷内松	左岸	120
○ 23			表郷内松	右岸	260
○ 24		棚倉町	一色	左岸	128
○ 25			一色	右岸	150
○ 26			堤	左岸	35
○ 27		石川町	沢井	左岸	150
○ 28		浅川町	福貴作	右岸	50
○ 29			福貴作	右岸	170
○ 30			福貴作	左岸	330
○ 31	藤川	会津美里町	橋丸	右岸	100
○ 32	三滝川	新地町	福田	左岸	50
○ 33	宇多川	相馬市	西山	左岸	200
○ 34			南飯洲	右岸	100
○ 35			北飯洲	左岸	78
○ 36	小泉川		和田	左岸	20

NO.	河川名	市町村	地区名	左右岸	延長(m)
○ 37	太田川	南相馬市	益田	左岸	180
○ 38	川房川		川房	左岸	50
○ 39	小高川		小屋木	左岸	150
○ 40			金谷	右岸	30
○ 41	水無川		高倉	右岸	70
○ 42	上真野川		橋原	左岸	40
○ 43	夏井川	いわき市	平輪岡	左岸	25
○ 44			平下平塚左1門内	左岸	25
○ 45			小川町	左岸	70
○ 46			平下平塚中島町	左岸	30
○ 47			平下平塚大念仏	左岸	30
○ 48	好間川		好間町今新田	左岸	25
○ 49	鮫川		遠野町滝	右岸	300

決壊箇所 49箇所(23河川 17市町村)
内、県対応 33箇所(15河川 10市町村) ○
国直轄権限代行 16箇所(8河川 8市町村) ●

主な被災箇所 (河川)

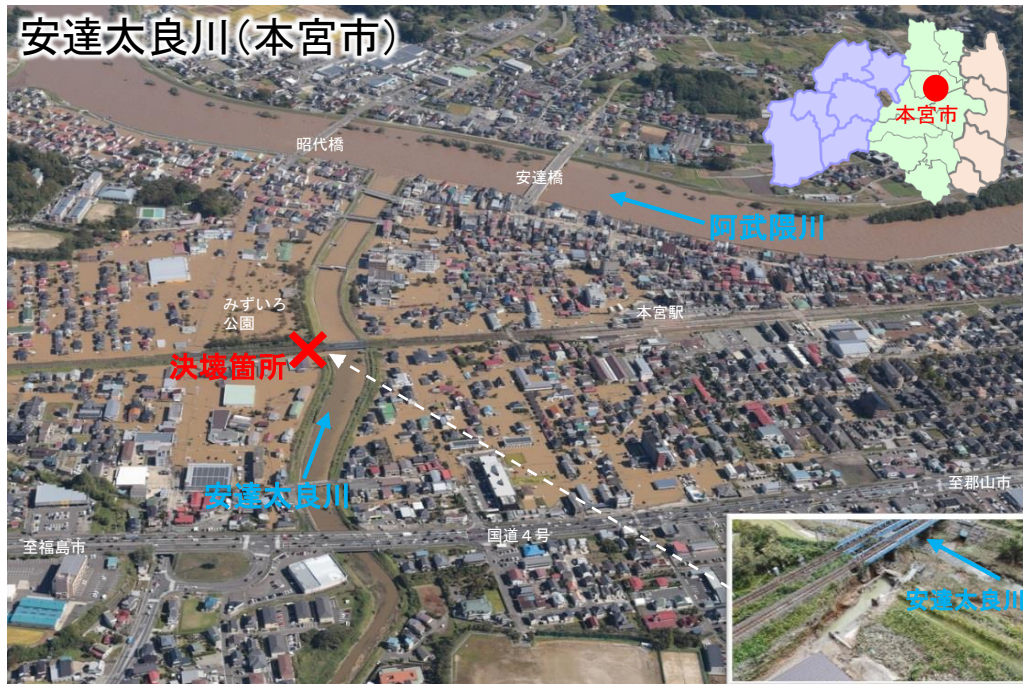
宇多川(相馬市)



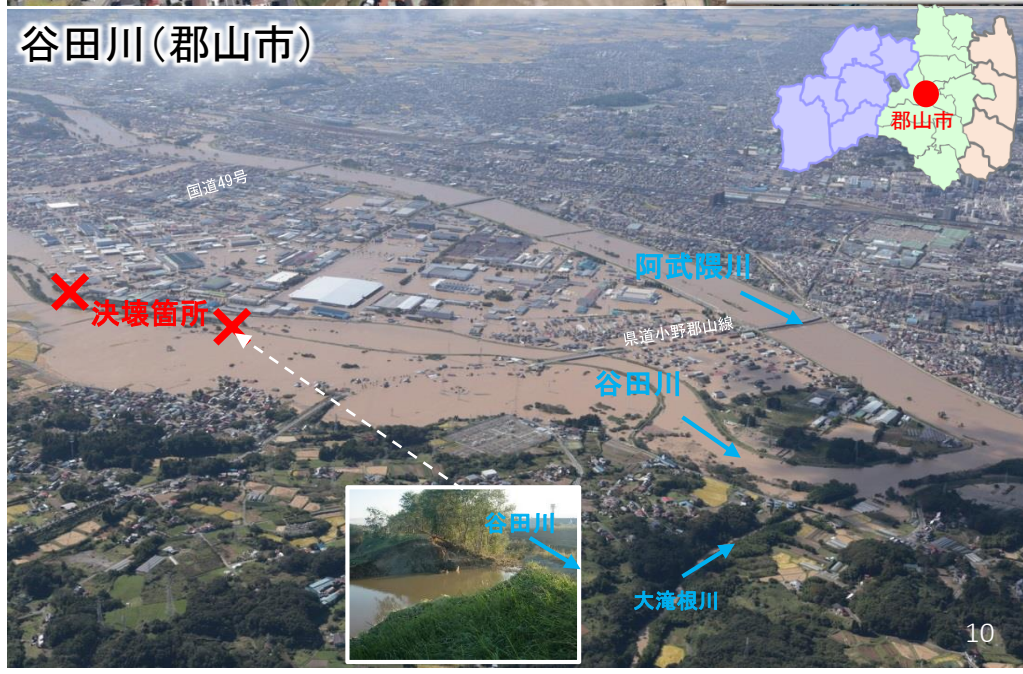
夏井川(いわき市)



安達太良川(本宮市)

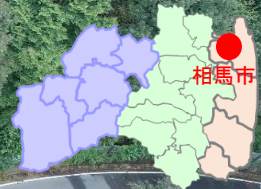


谷田川(郡山市)



主な被災箇所 (道路)

国道115号(相馬市)



至福島市

宇多川

宇多川

いわき石川線(いわき市)

至石川町



鉸川

11

至いわき市

11

主な被災箇所 (砂防・下水道)

百目木(二本松市)

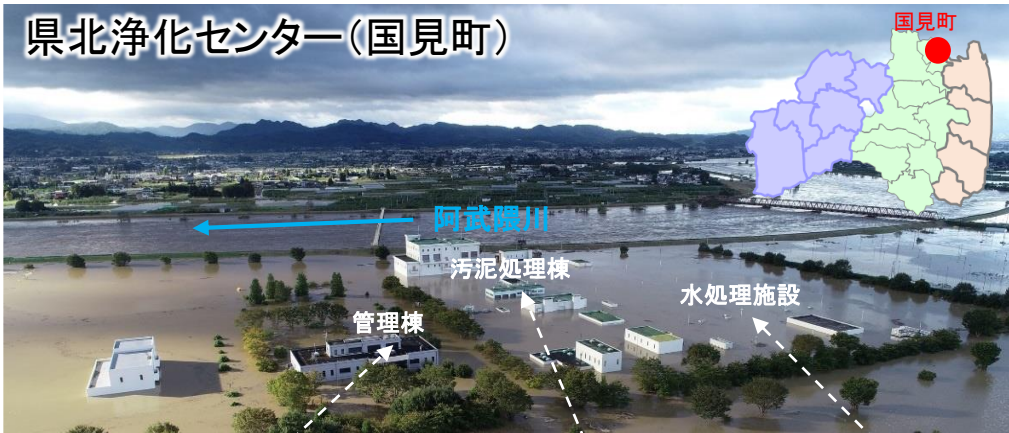


崩落延長L=40.0m

二本松市

県北浄化センター(国見町)

国見町



阿武隈川

汚泥処理棟

管理棟

水処理施設

管理棟ボイラ一室被災状況

汚泥処理棟被災状況

水処理施設被災状況



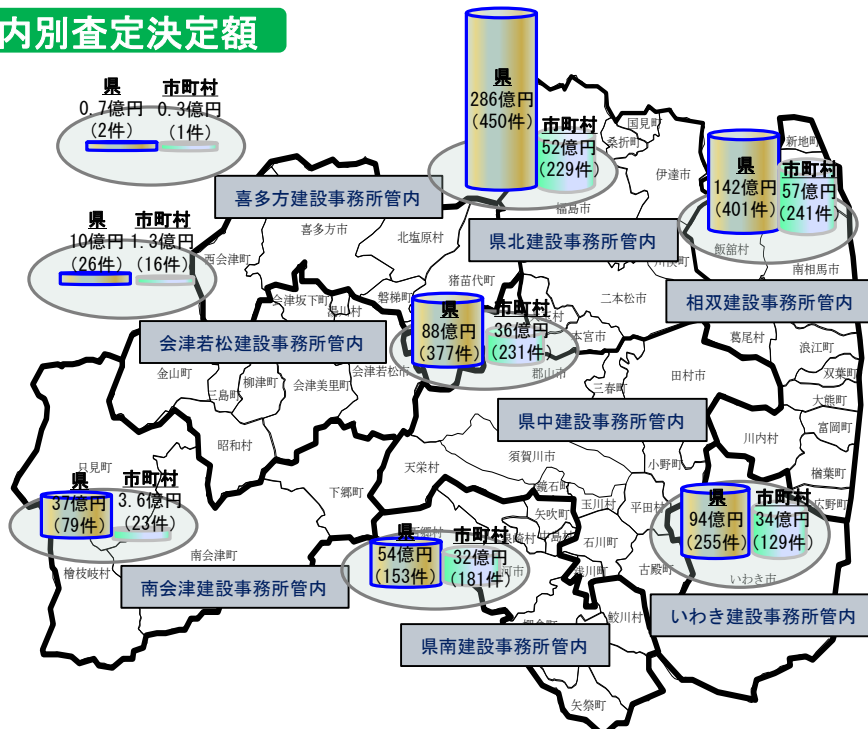
12

公共土木施設等 災害査定結果内訳

(令和2年2月14日現在)

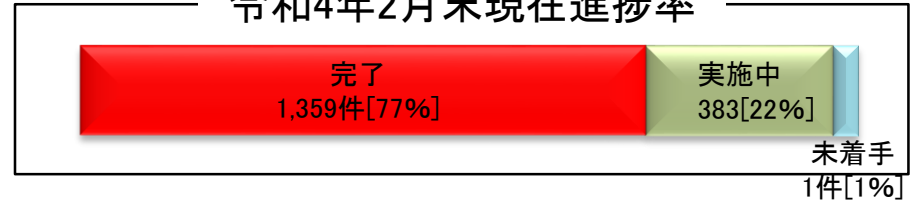
工種	県			市町村			県、市町村合計		
	箇所数	金額 (百万円)		箇所数	金額 (百万円)		箇所数	金額 (百万円)	
河川	1,411	50,072	70.4%	473	8,387	38.8%	1,884	58,459	63.0%
海岸	1	460	0.6%			0.0%	1	460	0.5%
砂防設備	28	680	1.0%			0.0%	28	680	0.7%
道路	277	4,737	6.7%	495	6,130	28.4%	772	10,868	11.7%
橋梁	1	117	0.2%	24	3,781	17.5%	25	3,898	4.2%
港湾	4	119	0.2%			0.0%	4	119	0.1%
漁港	13	923	1.3%			0.0%	13	923	1.0%
下水道	1	12,688	17.8%	30	1,972	9.1%	31	14,660	15.8%
都市施設(公園等)			0.0%	23	835	3.9%	23	835	0.9%
住宅	7	1,360	1.9%	6	505	2.3%	13	1,865	2.0%
計	1,743	71,156	100.0%	1,051	21,610	100.0%	2,794	92,766	100.0%

管内別査定決定額



公共土木施設等復旧状況

令和4年2月末現在進捗率



工種	査定箇所数	着工箇所数	着工率	完了箇所数	完了率
河川	1,411	1,410	99.9%	1,058	74.9%
海岸	1	1	100.0%	1	100.0%
砂防	28	28	100.0%	25	89.2%
道路	277	277	100.0%	250	90.2%
橋梁	1	1	100.0%	1	100.0%
下水道	1	1	100.0%	0	0.0%
港湾	4	4	100.0%	4	100.0%
漁港	13	13	100.0%	13	100.0%
住宅	7	7	100.0%	7	100.0%
合計	1,743	1,742	99.9%	1,359	77.9%

■方部別

方部	査定箇所数	着工箇所数	着工率	完了箇所数	完了率
県北	450	450	100.0%	284	63.1%
県中	377	377	100.0%	289	76.6%
県南	153	152	99.3%	130	84.9%
会津若松	26	26	100.0%	22	84.6%
喜多方	2	2	100.0%	2	100.0%
南会津	79	79	100.0%	69	87.3%
相双	401	401	100.0%	356	88.7%
いわき	255	255	100.0%	207	81.1%
合計	1,743	1,742	99.9%	1,359	77.9%

内帰還困難区域	査定箇所数	着工箇所数	着工率	完了箇所数	完了率
	33	33	100.0%	28	84.8%

最新の進捗状況は下記HPから確認できます。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/saigaifukkyu-19.html>



公共土木施設等復旧状況

主な復旧箇所(中通り)

一級河川 山舟生川 山舟生地区 (伊達市梁川町)



●被災状況

(被災概要等)

- ・延長約2kmに渡り護岸が決壊
- ・県道丸森梁川線の通行規制
- ・7戸、3.6haが浸水被害
- ・土砂、流木が田畑に流出

●復旧状況

(工事概要等)

- ・護岸工L=2km
- ・橋梁工N=1基
- ・下流側より工事着手
- ・橋梁下部工施工中

●住民の声

「工事時期がどうしても農作業と重なって、用水の滞りを懸念していたが、業者さんが適切に対応してくれて問題なく作業が出来ているよ。」

「下流の工事が目に見えてどんどん進んでいて感謝している。川幅は変わらないが護岸がしっかりして安心できるようになった。」

「完成まで地元全体で全面的に協力していく。」

改良区間の標準的な断面形状

通路 幅1m | 川幅 約15m | 通路 幅3m

川幅 約10m

堤外水路

— これまでの川幅 —
— 新しい川幅 —

一級河川 濁川 郷野目地区 (福島市)



●被災状況

(被災概要等)

- ・延長1.5mが破壊 (住宅浸水)

●復旧状況

(工事概要等)

- ・堤防盛土 V=500m³
- ・堤防舗装工 A=250m²

●住民の声

「何が起るかは分からないが、決壊した箇所の整備が終わわり、堤防も高くなったから安心して生活できるよ。」

「愛着のある濁川だから、新しい堤防も地域で草刈りを行っていく。」

「堤防が復旧しても、あの日以来、自分で雨量を確認するようになった。」

堤防のかさ上げ、堤防天端の舗装を行いました。

3,000
250 2,500 250

距離計測位置
堤防天端
堤防盛土
堤防舗装工
スラスラト舗装
コンクリート

幅=81,000

一級河川 菅川 (郡山市湖南町)



●被災状況

(応急復旧後)

- ・延長32.0mの堤防崩壊

●復旧状況

- ・護岸工
L = 32.3m
A = 205.7m²

●住民の声

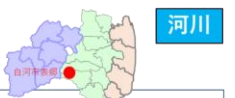
「この場所は昭和の始め頃に決壊した場所だった。」

「被災後、すぐに大型土のうで応急復旧をしてくれてよかった。」

「護岸ができて、川の中の土も撤去してもらえて、これで安心して眠ることができる。(背後地 地権者さんの声)」

3600
2100
1000
D.H.W.L.
L.L.
平面図

一級河川 社川 中寺地区 (白河市表郷)



●被災状況

- ・被害延長6.2m
- ・破堤
- ・護岸崩壊
- ・排水暗渠崩壊

●復旧状況

- ・L = 57.4m
- ・令和元年11月工事完了

●住民の声

「壊れた堤防は補強され復旧が終わり、安心してしています。社川には土砂が堆積しており、水量が多くなると危険なので、川底をさられて欲しい。さらに安心して暮らせる。」

管内の河川については、今年度から令和6年度までの5年間で、集中的に堆積土砂掘削を行うなど、治水安全度の向上に取り組んで参ります。(管理課)

横断面図

主な復旧箇所(浜通り)

二級河川三滝川 福田地区 (新地町)



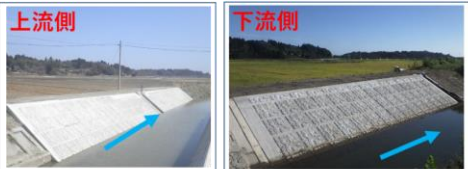
●被災状況



(被災概要等)
・延長73.1mが破堤
(上流52.1m,下流21.0m)

・堤防が決壊し、背後の耕作地が被害を受けた。

●復旧状況



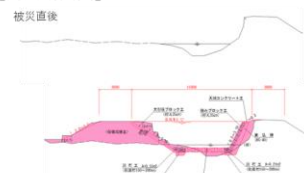
(工事概要等)
・護岸工L=73.1m (上流52.1m,下流21.0m)
A=319.1m² (上流202.0m²,下流117.1m²)

●住民の声



「これまで三滝川は台風など雨の度に何度も破堤した。今回の復旧工事により、護岸がより強固になっており安心した。この災害の経験を契機として、他の河川も護岸整備を進めて欲しい。」
(福田地区自治会長さんの声)

【河川断面図】



真野川漁港 南防波堤 (南相馬市鹿島区)



●被災状況



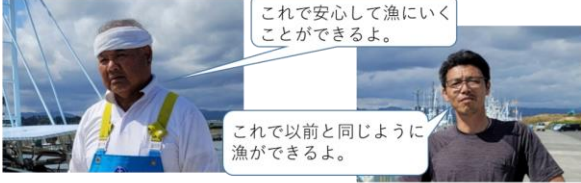
(被災概要)
・消波ブロック364個が崩落

●復旧状況



(工事概要)
・延長L=86.6m
・消波ブロックN=364個

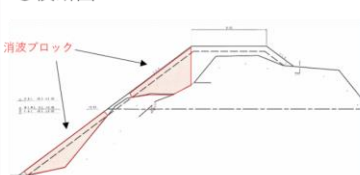
●漁業者の声



「これで安心して漁にいくことができるよ。」

「これで以前と同じように漁ができるよ。」

●横断面図



主要地方道 小野富岡線 五枚沢地区 (双葉郡川内村)



●被災状況



【被災概要】

- ・道路の路肩が崩落
- ・橋梁踏面板及び排水構造物が流出
- ・全面通行規制

●復旧状況



【工事概要】

- ・舗装工
L=33.0m
W=9.0m
- ・法覆工
A=34.2m²

●住民の声

令和元年東日本台風の大雨により、道路の排水及び山林からの出水を処理しきれず、道路や法面、排水構造物等が崩壊したため、全面通行規制により復旧作業を行った。一部保安林等の手続きに時間を要したが、緻密な工程管理や施工業者の協力もあり、約1ヶ月前倒りで開通した。(予定：R2.8下旬 → 実績：R2.7中旬)

川内村からの強い要望

小野富岡線は、川内村と富岡町を結ぶ重要な路線であり、迂回路はあるものの狭く、東日本大震災の復旧工事による大型車等も多いことから、一般住民の安全な通行のために早急な復旧を望む。



二級河川 夏井川 四左エ門内地区 (いわき市平下窪)



●被災状況



(被災概要等)
・破堤延長L=36.0m

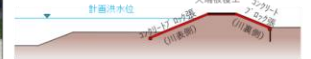
(夏井川周辺の被災概要)
・8箇所破堤
・浸水面積約1,200ha
・床上浸水3,749戸
・床下浸水560戸
・約45,000世帯が断水

●復旧状況



(工事概要等)
・延長L=36.0m
・護岸工(コックトップロック張)
川表側A=354.0m²
川裏側A=95.0m²
・天端被覆工A=144.0m²

(堤防の構造)



令和元年東日本台風の時に越水による川裏側からの洗掘により破堤したことから、川表、川裏側に護岸工を施工、堤防天端をアスファルト舗装により被覆することで堤防全体の洗掘を防止し強化を図っている。

●住民の声 (地元区長・地域住民)

「破堤したところは、堤防全体に護岸を施工してくれて良かった。伐木・掘削工事(災害復旧助成事業)も初めは遅いと感じたが、今は工事が進んでいる。パンフレット配布や大きな看板の設置もあって工事の内容等は、周知されていると感じる。工事(災害復旧助成事業)が終わった後、雑木等が繁茂しないように維持管理が重要だと思う。他の危険な箇所(水衝部等)にも護岸を施工してほしい。」



●災害復旧助成事業の進捗状況



災害復旧助成事業により進む河川の伐木・掘削工事の状況

主な復旧箇所(会津地方)

主要地方道 会津若松三島線 銀山橋 (会津若松市北会津町)



道路

●被災状況



(被災概要等)

- ・橋脚が洗掘を受け約50cm沈下
- ・橋梁の全面通行止

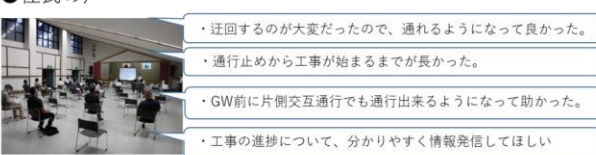
●復旧状況



(工事概要等)

- ・沈下した橋脚1基の撤去新設
- ・洗掘防止のため根固ブロックの設置

●住民の声



- ・迂回するのが大変だったので、通れるようになって良かった。
- ・通行止めから工事が始まるまでが長かった。
- ・GW前に片側交互通行でも通行出来るようになって助かった。
- ・工事の進捗について、分かりやすく情報発信してほしい



一級河川 大谷川 本村地区外 (大沼郡三島町)



河川

●被災状況



令和元年10月12日～13日の台風19号により、河川施設(護岸)が被災。

- 延長60.4mが崩落(本村工区)
- 延長50.0mが崩落(源導寺工区)
- 延長32.4mが崩落(牧ノ平工区)

●復旧状況

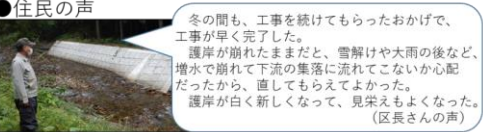


コンクリートブロック工により復旧が完了。

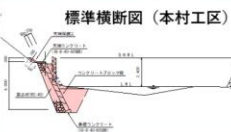
- (本村工区) L=60.4m, A=256.2m²
- (源導寺工区) L=50.0m, A=265.5m²
- (牧ノ平工区) L=32.4m, A=216.6m²



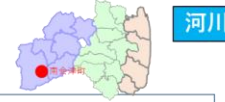
●住民の声



冬の間に、工事を続けてもらったおかげで、工事が早く完了しました。護岸が崩れたままだと、雪解けや大雨の後など、増水で崩れて下流の集落に流れてこないか心配だったので、直してもらえてよかった。護岸が白く新しくなって、見栄えもよくなった。(区長さんの声)



一級河川 金地川 中荒井地区 (南会津町)



河川

●被災状況



(被災概要等)

- ・被災箇所: 中荒井1号 護岸工L=107.5m
- ・被災状況: 護岸背面の吸い出し、護岸の流失。

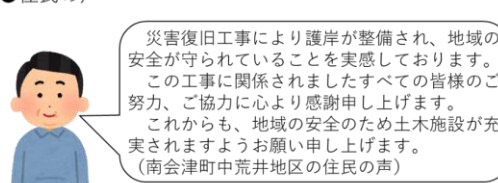
●復旧状況



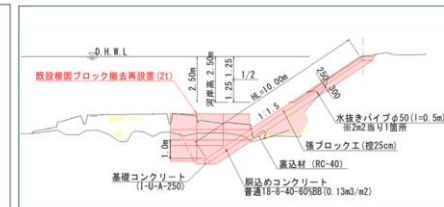
(工事概要等)

- ・復旧延長: 中荒井1号 護岸工L=107.5m

●住民の声



災害復旧工事により護岸が整備され、地域の安全が守られていることを実感しております。この工事に関係されましたすべての皆様のご努力、ご協力に心より感謝申し上げます。これからも、地域の安全のため土木施設が充実されますようお願い申し上げます。(南会津町中荒井地区の住民の声)



一級河川 大谷川 本村地区外 (大沼郡三島町)



河川

●被災状況



- ・被災箇所: 静川1号L=129.0m, 静川2号L=77.7m, 静川3号L=77.0m
- ・被災状況: 護岸背面の吸い出し、土砂流出により河道内に土砂堆積

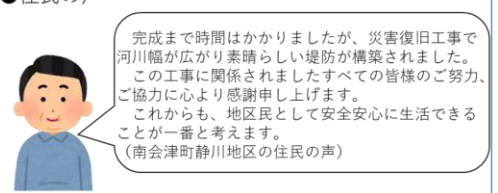
●復旧状況



(工事概要等)

- ・復旧延長: 静川1号L=129.0m, 静川2号L=77.7m, 静川3号L=77.0m

●住民の声



完成まで時間はかかりましたが、災害復旧工事で河川幅が広がり素晴らしい堤防が構築されました。この工事に関係されましたすべての皆様のご努力、ご協力に心より感謝申し上げます。これからも、地区民として安全安心に生活できることが一番とを考えます。(南会津町静川地区の住民の声)



県北浄化センター 施設復旧と水質 改善の取組について

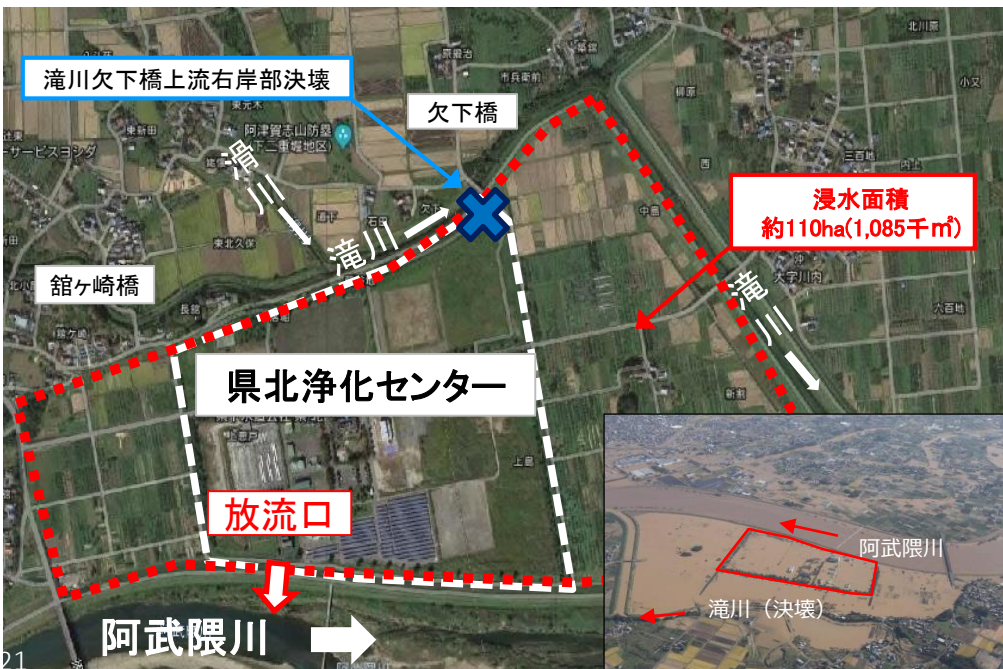


被災概要と施設復旧に係る取組

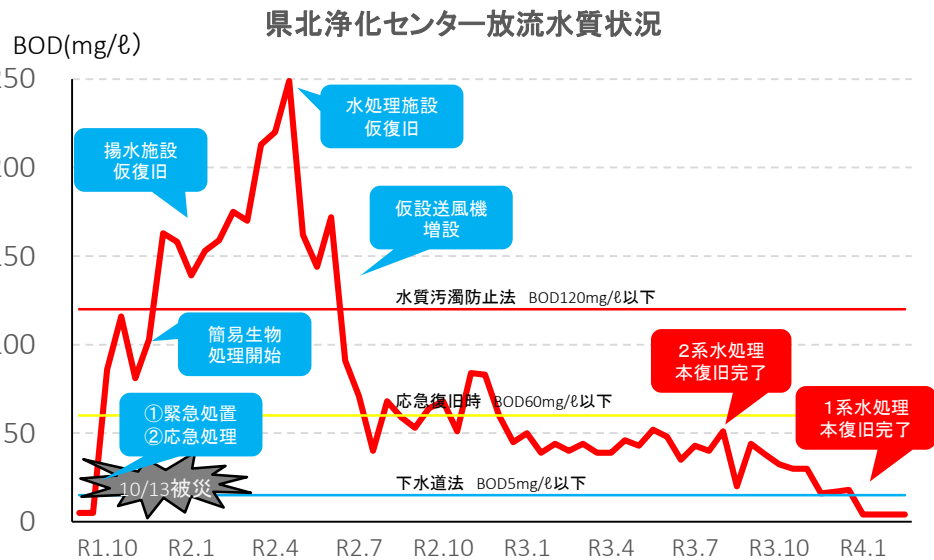
【被災概要】・滝川決壊で処理場全体が約4.8m浸水
・浸水により一階、地下部が全て水没し、機械、電気設備が被災



【施設復旧の取組】被災から概ね2年での処理施設復旧が目標
令和2年9～12月
機械・電気・土木・建築施設全ての本復旧工事に着手(19件)

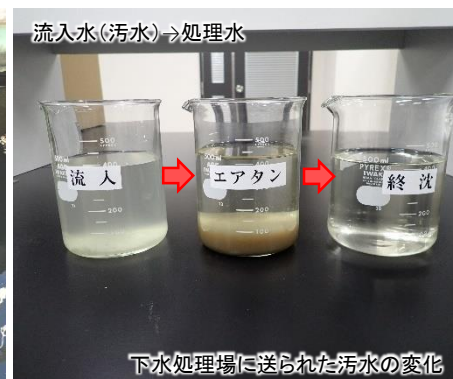
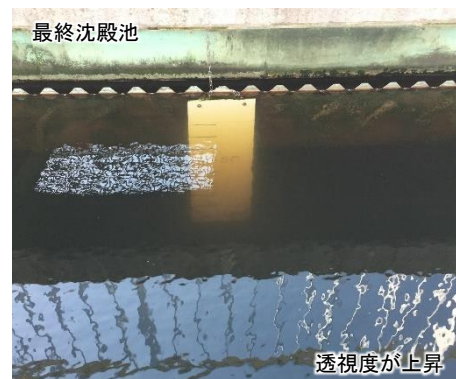
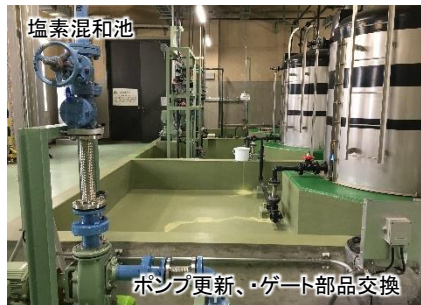


応急復旧と本復旧の水質改善の効果



- 令和元年 12月～令和2年1月 揚水施設仮復旧
- 令和2年 1～4月 水処理施設仮復旧
- 令和3年 6月 受電設備復旧
- 7月 2系列水処理施設復旧
- 8月 揚水施設復旧
- 9月 汚泥処理施設、放流施設復旧
- 12月 1系列水処理施設復旧
- 令和4年 2月 自家発電機、中央監視装置復旧
- 3月 土木施設復旧 **※全施設復旧完了**

主な復旧箇所



福島県緊急水災害対策プロジェクト

令和元年東日本台風等による災害を踏まえ、頻発化・激甚化する水災害への対応として、総合的な防災・減災対策の強化を目的に、令和6年度までに県が集中的に推進する取組を公表しました。

福島県緊急水災害対策プロジェクトの概要について

福島県緊急水災害対策プロジェクト

令和元年東日本台風等による災害を踏まえ、頻発化・激甚化する水災害への対応として、総合的な防災・減災対策の強化を目的に、令和6年度までに県が集中的に推進する取組
 予算規模：令和4年度当初 約410億円

【ハード対策】

- 1 改良復旧事業及び災害復旧事業の推進 ★
○ 台風19号による被災箇所での速やかな復旧と改良復旧事業を速やかに実施します。
- 2 河川の河道掘削及び伐木の推進 ★
○ 河川の河道掘削及び伐木を速やかに実施します。
- 3 河川改修及び堤防強化の推進 ★
○ 河川改修及び堤防強化を速やかに実施します。
- 4 土砂災害の推進 ★
○ 砂防・地すべり・急傾斜事業を速やかに実施します。

【ソフト対策】

- 5 危機管理型水位計の設置拡大 ★
○ 危機管理型水位計の新規設置を進めます。
- 6 河川監視カメラの設置拡大 ★
○ 河川監視カメラの新規設置を進めます。
- 7 洪水浸水想定区域の公表の前倒し・拡大 ★
○ 水位周知河川及び洪水予報河川について、想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域の公表の前倒しと拡大を図ります。
- 8 福島県河川流域総合情報システムのサーバー強化 ★
○ アクセス集中時にも遅延無く表示ができるよう、システムを見直します。
- 9 ダムにおける事前放流に向けた体制構築 ★
○ ダムにおいて事前放流が実施できるよう、調整を進めます。
- 10 土砂災害警戒区域等の指定の推進
○ 住民の早期避難行動に繋がるよう、区域指定を推進します。

水災害対策協議会で抽出された課題（★）

関係機関で検討が必要な項目 ★

- ・情報伝達方針見直し
- ・住民の防災意識改革
- ・住民への情報提供
- ・ハザードマップ見直し
- ・排水ポンプ車早期配備
- ・広域避難検討
- ・台風想定避難訓練
- ・水防資機材の確保



※ 最新の進捗状況は下記HPから確認できます。
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41045a/mizusaigai-0.html>

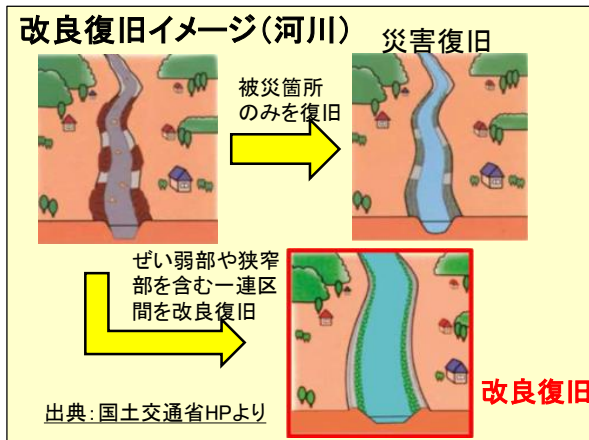
1 改良復旧事業及び災害復旧事業の推進

①改良復旧事業

事業箇所：8河川 9箇所

事業期間：令和元年度～5年（予定）

計画概要：令和元年東日本台風により甚大な被害を受けた、いわき市の夏井川などにおいて、災害復旧とあわせて河川改良を行い、再度災害防止を図ります。



＜参考＞

○災害関連事業(関連)
被災箇所あるいは未被災箇所を含む一連の施設について、災害復旧事業費に関連費(改良費)を加えて実施する改良事業
改良費が6億円以下のもの

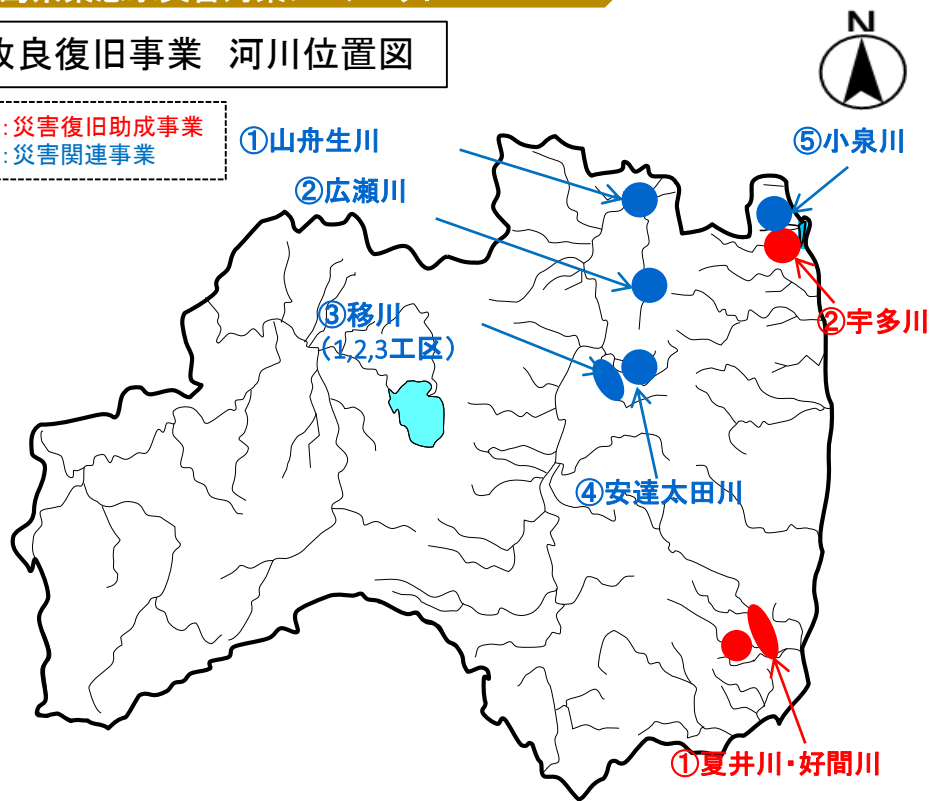
○災害復旧助成事業(助成)
河川の災害が激甚であって、災害復旧工事のみでは十分な効果を期待できない場合において、災害復旧事業費に助成費(改良費)を加えて一定計画の下に施工する改良事業
改良費が6億円を超えるもの

事業名	河川名	箇所	延長(m)	全体事業費※(百万円)
災害復旧助成事業	①夏井川・好間川	いわき市	21,500	30,461
	②宇多川	相馬市	5,355	6,137
災害関連事業	①山舟生川	伊達市	1,885	830
	②広瀬川	川俣町	620	550
	③移川(1,2,3工区)	二本松市	2,179	2,270
	④安達太田川	二本松市	2,340	1,145
	⑤小泉川	相馬市	473	440
事業費計				41,833

※助成・関連事業費のほか、現地の被災状況等を踏まえた堤防の強化や橋梁の架け替え工事費を加えています。

改良復旧事業 河川位置図

- : 災害復旧助成事業
- : 災害関連事業



(令和3年9月末現在)

<災害復旧助成事業 進捗状況>

100%

進捗率 62%

完成率 1%

<災害関連事業 進捗状況>

100%

進捗率 78%

完成率 1%

注)着手率=契約額/全体事業費×100%、完成率=完成延長/全体計画延長×100%

②災害復旧事業

(令和4年2月末現在)

決定額 (億円)	全体箇所数	着手済み箇所数	完了箇所数
501	1,411	1,410	1,058

※ 工種別、方部別の情報は、P14で確認できます。

※ 最新の進捗状況は下記HPから確認できます。
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/saigaifukkyu-19.html>



【災害関連事業の実施状況】



広瀬川(川俣町)



安達太田川(二本松市)

福島県緊急水災害対策プロジェクト

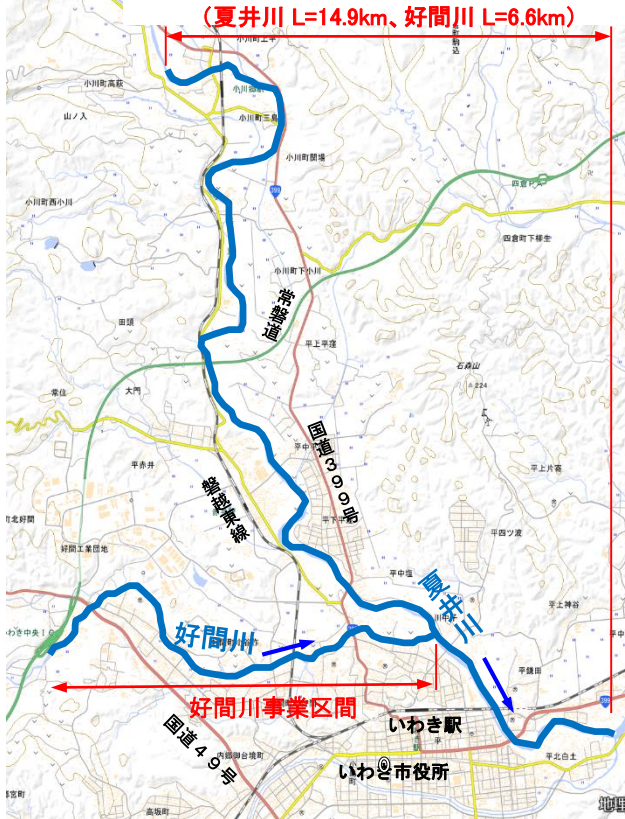
■ 主な事業箇所：夏井川災害復旧助成事業

【事業内容】

- 河川名 : 二級河川夏井川水系夏井川及び支川好間川
- 事業箇所 : 福島県いわき市平塩地内外
- 事業延長 : L=21.5km (夏井川L=14.9km、好間川L=6.6km)
- 事業期間 : 令和元年度～令和5年度(予定)
- 全体事業費 : 約305億円(助成事業とあわせた県事業を含む)
- 事業概要 : 河道掘削工、築堤工、護岸工、橋梁工 等

【平面図】

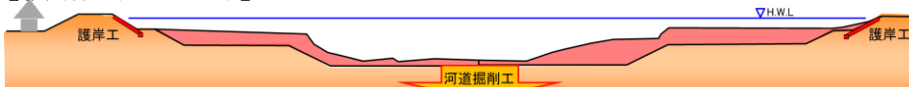
災害復旧助成事業 L=21.5km
(夏井川 L=14.9km、好間川 L=6.6km)



【被災状況写真】



【横断面(イメージ)】



【実施状況】

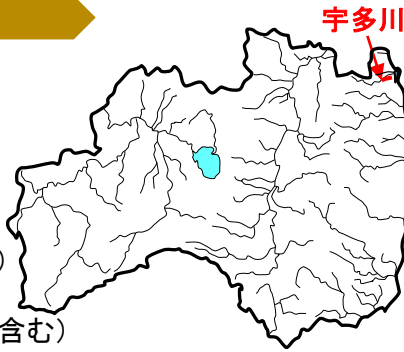


福島県緊急水災害対策プロジェクト

■主な事業箇所: 宇多川災害復旧助成事業

【事業内容】

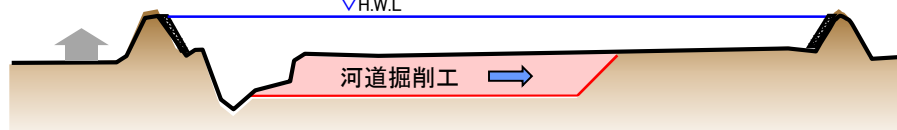
- 河川名 : 二級河川宇多川水系宇多川
- 事業箇所 : 福島県相馬市北飯渚地内外
- 事業延長 : L=5,355m
- 事業期間 : 令和元年度～令和5年度(予定)
- 全体事業費 : 約61.4億円
(助成事業とあわせた県事業を含む)
- 事業概要 : 河道掘削工、護岸工、堰 等



【平面図】



【横断面図(イメージ)】



【被災状況】



【実施状況】



2 河川の河道掘削及び伐木の推進

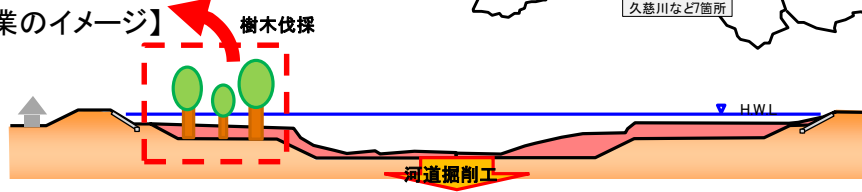
河道断面を拡大する「河道掘削」と流木被害解消を目的とした伐木を推進します。

事業後の維持管理費用の削減にも効果があります。

【事業内容】

事業箇所 : 社川(棚倉町)など231箇所
 事業期間 : 令和2年度～令和6年度
 事業概要 : 河道掘削、伐木

【事業のイメージ】

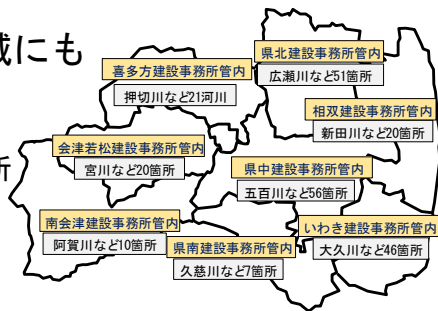


【実施状況】



(令和3年9月末現在)

年度	全体箇所数	着手済み箇所数	完了箇所数
令和2年度	231	230	173
令和3年度	243	101	45



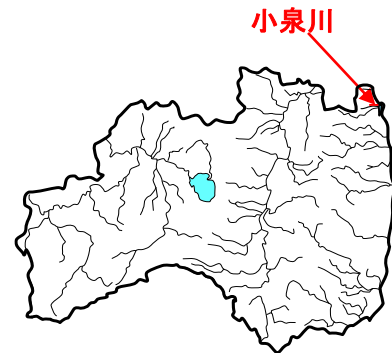
3-1 河川改修の推進

① 浸水対策重点地域緊急事業(1)

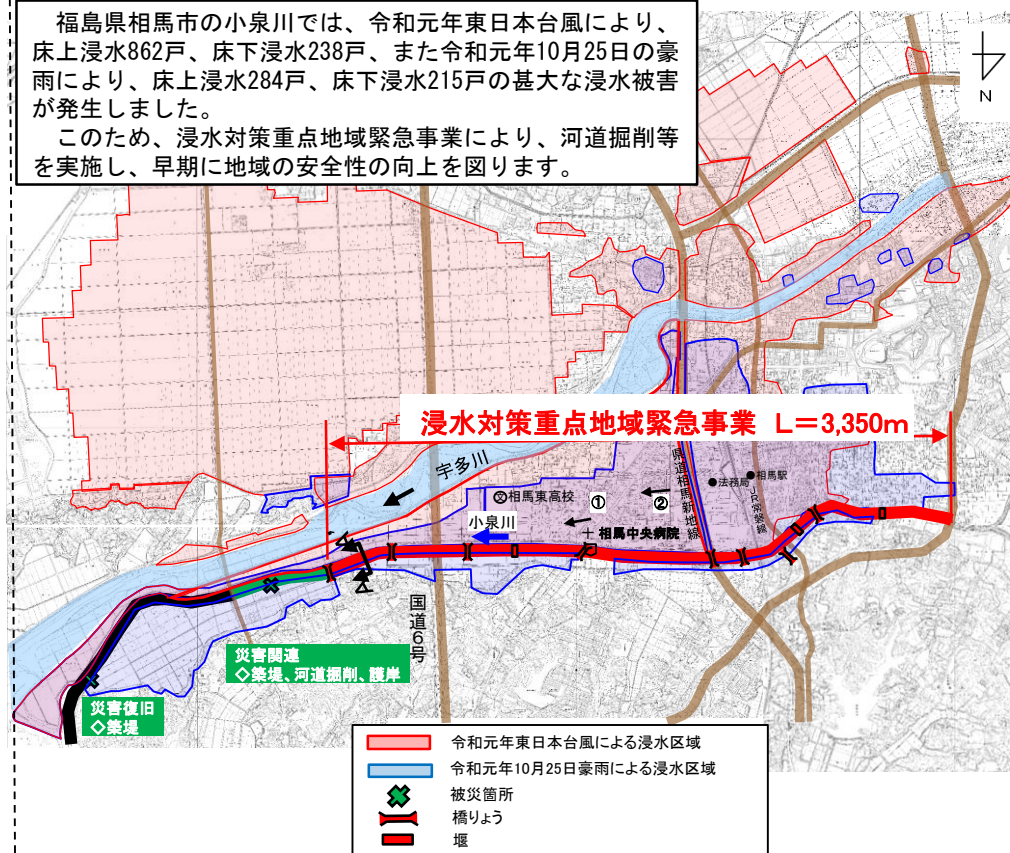
■ 小泉川水系小泉川

【事業内容】

河川名 : 二級河川小泉川水系小泉川
 事業箇所 : 相馬市
 事業延長 : L=3,350m
 事業期間 : 令和2年度～令和6年度(予定)
 全体事業費 : 約60億円
 事業概要 : 河道掘削工、築堤工、護岸工、橋梁工、堰、用地補償等



福島県相馬市の小泉川では、令和元年東日本台風により、床上浸水862戸、床下浸水238戸、また令和元年10月25日の豪雨により、床上浸水284戸、床下浸水215戸の甚大な浸水被害が発生しました。
 このため、浸水対策重点地域緊急事業により、河道掘削等を実施し、早期に地域の安全性の向上を図ります。



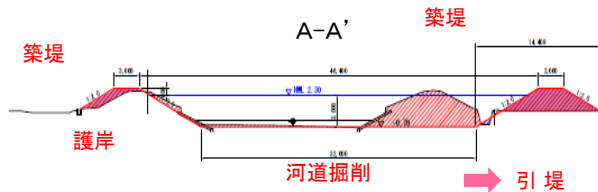
福島県緊急水災害対策プロジェクト

①浸水対策重点地域緊急事業(2)

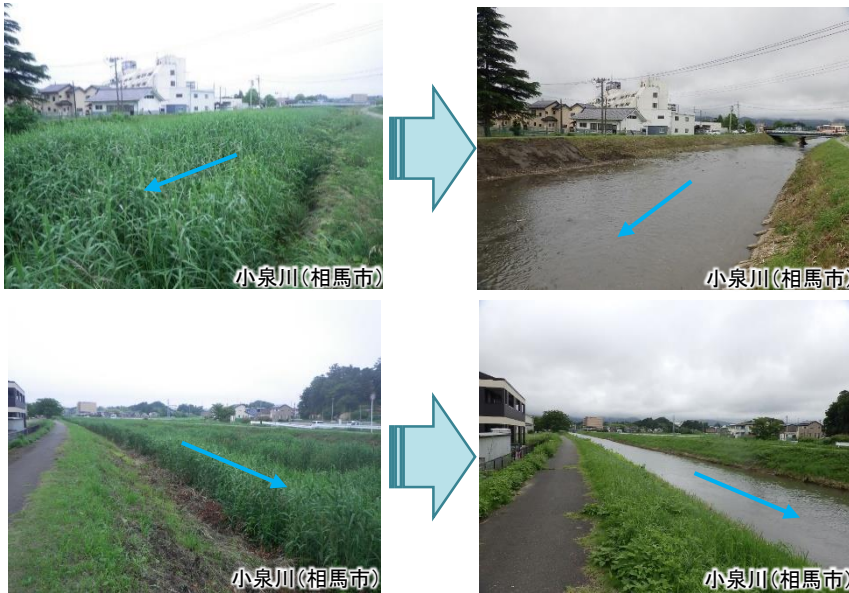
【浸水状況】



【事業実施のイメージ】



【現況写真】



※流下能力を確保するため、河道掘削は別事業で実施
 ※浸水対策重点地域緊急事業により、引き続き改修を進める

②新規着手事業の推進(1)

甚大な被害を受けた6河川については、令和2年度から新たに※個別補助事業等を進めています。

※個別補助事業とは、計画的・集中的な対策を実施することで、早期の治水安全度の向上を図るもの。

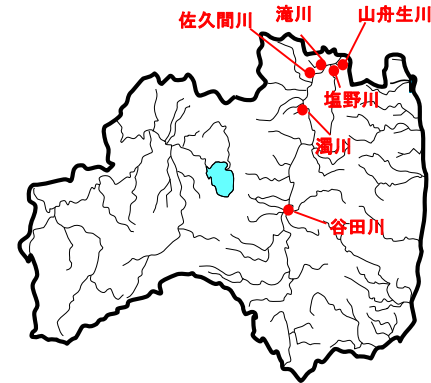
【事業内容】

河川名 : 阿武隈川水系 塩野川(伊達市)、佐久間川(桑折町)、滝川(国見町・伊達市)、濁川(福島市)、谷田川(郡山市)、山舟生川(伊達市)

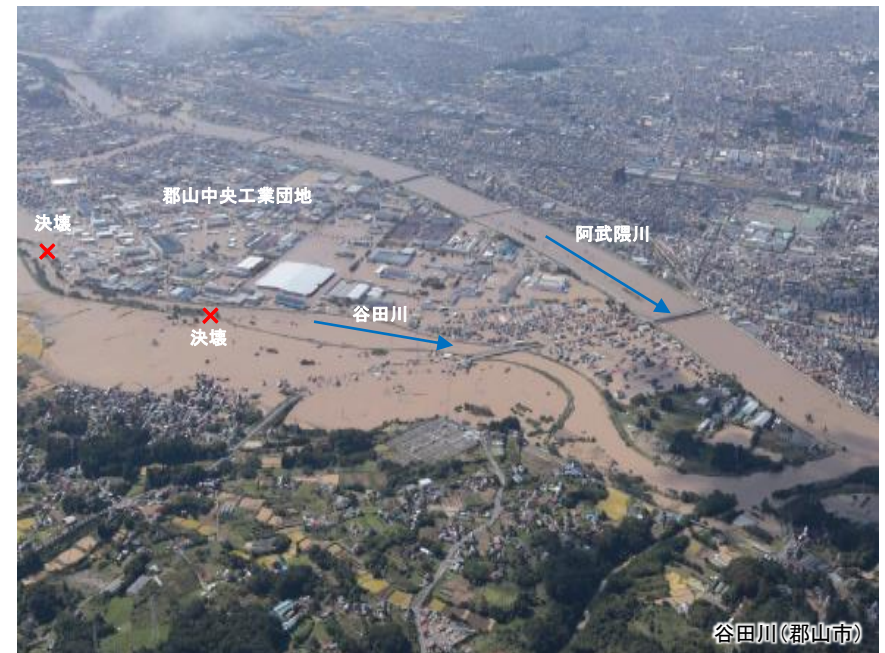
事業期間 : 令和2年度～

全体事業費 : 約75億円

事業概要 : 河道掘削、築堤等による阿武隈川本川の背水対策



【浸水状況】



②新規着手事業の推進(2)

【浸水状況】



【実施状況】



③緊急的な一定箇所を改修(1)

令和元年東日本台風による被害を受け、緊急的に一定箇所を改修します

【事業内容】

河川名 : 安達太良川(本宮市) など78河川

事業期間 : 令和元年度～

全体事業費 : 約131億円

【被災状況】



(令和3年9月末現在)

事業費 (億円)	対象河川数	着手済み河川数	完了河川数
131	78	78	47

③緊急的な一定箇所の改修(2)

【実施状況】



安達太良川(本宮市)



一の戸川(喜多方市)



長瀬川(猪苗代町)



桜沢川(南会津町)



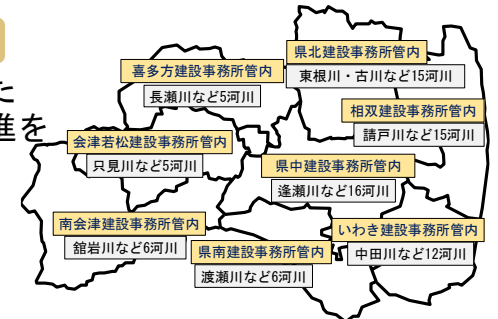
木戸川(川内村)

④継続河川改修事業の整備促進

これまで継続的に実施してきた河川改修事業のさらなる整備促進を図っていきます。

【事業内容】

河川名: 逢瀬川(郡山市)など80河川



【実施状況】



新大窪橋



咲田橋

逢瀬川(郡山市)



右支夏井川

車川

右支夏井川(小野町)



右支夏井川



只見川(三島町)



只見川(金山町)

3-2 堤防強化の推進

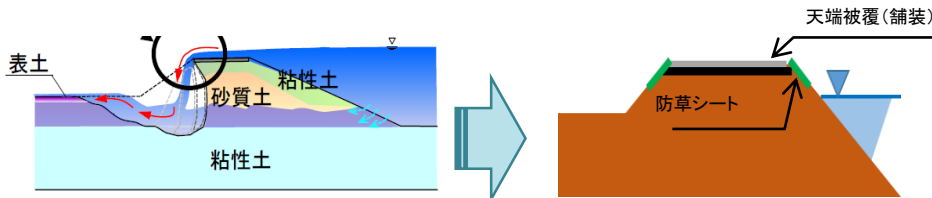
河川堤防天端を被覆（舗装）により補強します。除草必要面積の低減と利用者（歩行者や自転車）の利便性向上にも寄与します。

【事業内容】

河川名 : 東根川(伊達市)など97河川
 事業期間 : 令和2年度
 ~ 令和6年度



【事業のイメージ】



【令和2年度整備箇所写真】



(令和3年9月末現在)

年度	対象河川数	着手済み河川数	完了河川数
令和2年度	97	97	20
令和3年度	113	40	11

4 土砂災害対策の推進

①災害関連事業

緊急砂防等災害関連事業を緊急的に実施し、土砂災害対策が令和4年3月に完了しました。

被災状況



整備後



②土砂災害対策の推進

これまで続けてきた土砂災害対策事業のさらなる整備促進を図っていきます。



砂防堰堤等により、土砂流出を抑制し、下流での氾濫を防止する。

(令和3年9月末現在)

対象箇所数	着手済み箇所数	完了箇所数
172	172	40

5 危機管理型水位計の設置拡大

人家や重要施設など浸水の危険が高く、的確な避難判断のための水位観測が必要な箇所に洪水時の観測に特化した危機管理型水位計を設置します。

(令和3年9月末現在)

設置予定箇所数	設置済み箇所数
409	371



6 簡易型河川監視カメラの設置拡大

人家や重要施設など浸水の危険が高く、的確な避難判断を促すことが必要な箇所に簡易型河川監視カメラを設置します。



HP: 川の水位情報

(令和3年9月末現在)

設置予定箇所数	設置済み箇所数
156	91

設置済みの水位計、カメラの情報は下記HPで確認できます。
「川の水位情報」→
<https://k.river.go.jp/>



7 洪水浸水想定区域の公表の前倒し・拡大

水位周知河川追加指定予定の県管理31河川について、早期作成・公表を目指します。

あわせて、浸水想定区域図作成も、順次進めます。

(令和3年9月末現在)

洪水浸水想定区域 作成予定河川数	作成済 河川数
63	36



策定済みの洪水浸水想定区域図は下記HPで確認できます。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41045b/kouzuisinsou.html>

8 福島県河川流域総合情報システムのサーバー強化

令和元年東日本台風ではアクセスが集中し、アクセス性が低下したため、サーバー強化によりアクセス性を改善します。

【河川情報画面の改良(システム強化)】

河川情報と土砂災害警戒情報の表示画面を分割し、河川情報については画像による表示へ変更しました。このことにより、円滑に河川情報が表示されるようになりました。



これまでの福島県流域総合情報システム
(河川情報と土砂災害警戒情報を一つの画面に重ねて表示)



福島県河川流域総合情報システム
<http://kaseninf.pref.fukushima.jp/gis>



9 ダムにおける事前放流に向けた体制構築

事前放流とは、台風や前線の影響により大雨が予測される場合、ダムの利水容量の一部を放流することでダムの水位を下げ、水害を防止するための洪水調節^(※)容量（ダムに貯められる水の量）を増やす取組です。

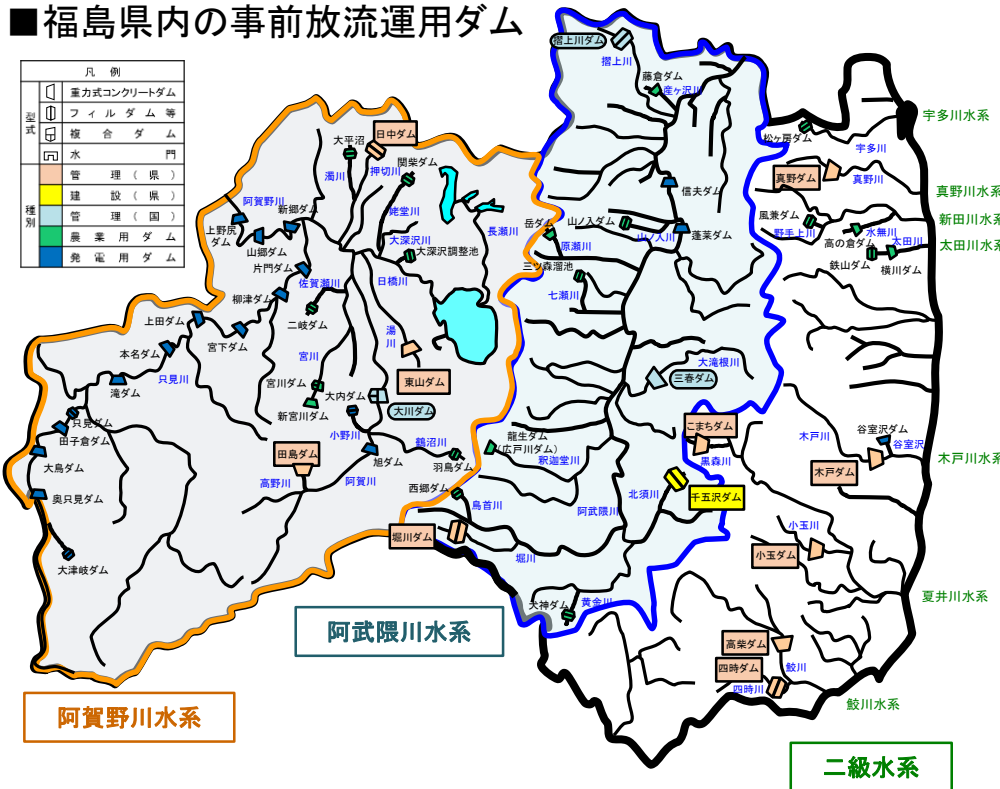
一級水系と二級水系のダムにおいて、下流河川の氾濫や浸水被害の軽減を図るため、事前放流等に向けた体制を構築しました。

県土木部が管理する全てのダム（10ダム）で、利水者と治水協定を締結し、事前放流の運用を開始しました。また、事前放流の取組みをより効果的に実施するため、ダム洪水調節機能協議会を設置しました。

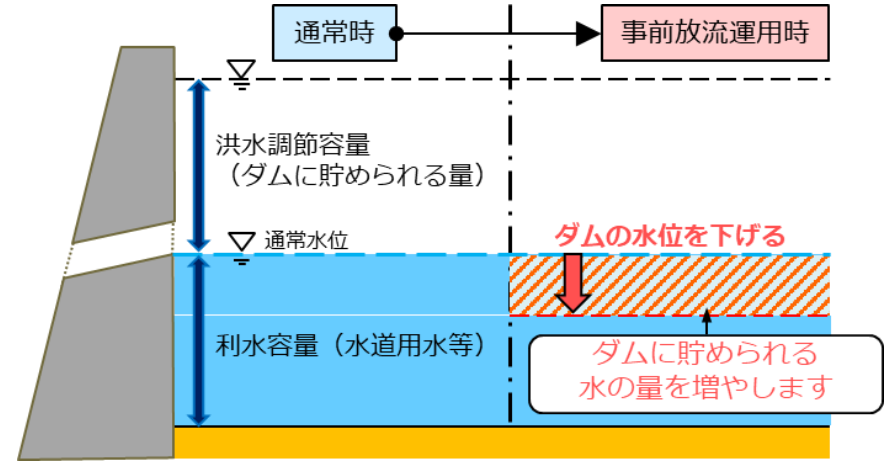
※洪水調節とは・・・雨が降って河川の流量が多くなった場合、ダムに流れ込んできた水の一部を溜めこみ、ダム下流に流れる水量を少なくすることです。

■福島県内の事前放流運用ダム

凡例	
□	重力式コンクリートダム
□	フィルダム等
□	複合ダム
□	門
□	水
□	管理（県）
□	建設（県）
□	管理（国）
□	農業用ダム
□	発電用ダム



■事前放流のイメージ



■治水協定締結の経過（県土木部管理ダム）

○一級水系

- 令和2年5月29日 堀川ダム（阿武隈川水系）
東山ダム、日中ダム、田島ダム（阿賀野川水系）

【参考】県土木部管理以外のダム

- 阿武隈川水系：摺上川ダム（国土交通省）など全12ダム
- 阿賀野川水系：大川ダム（国土交通省）など全24ダム

○二級水系

- 令和2年5月26日 高柴ダム、四時ダム（鮫川水系）
- 令和2年8月31日 真野ダム（真野川水系）、こまちダム、小玉ダム（夏井川水系）
- 令和3年3月1日 木戸ダム（木戸川水系）

【参考】県土木部管理以外のダム

- 宇多川水系：松ヶ房ダム
- 新田川水系：高の倉ダム、風兼ダム
- 太田川水系：横川ダム、鉄山ダム
- 木戸川水系：谷室沢ダム

■ダム洪水調節機能協議会設置状況

○一級水系

- 令和3年9月28日 阿賀野川水系（日中、東山、田島）
- 令和3年9月30日 阿武隈川水系（堀川）

○二級水系

- 令和3年10月27日 夏井川水系（こまち、小玉）、真野川水系（真野）
木戸川水系（木戸）、鮫川水系（高柴、四時）

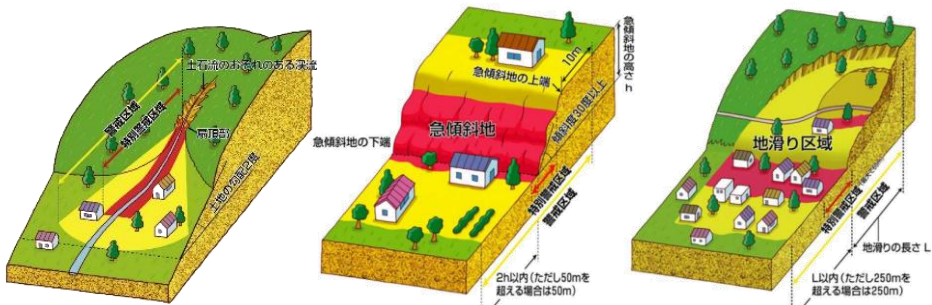
10 土砂災害警戒区域等の指定の推進

住民の早期避難行動に繋がるよう、区域指定を推進します。

土砂災害防止法に基づき、県が基礎調査を行い、土砂災害警戒区域等を指定します。

7,983箇所基礎調査の結果の公表は完了。(令和元年9月)

【土砂災害警戒区域等の模式図】



土石流

- 山腹が崩壊して生じた土石等又は溪流の土石等が水と一体となって流下する自然現象

急傾斜地の崩壊

- 傾斜度が30°以上である土地が崩壊する自然現象

地すべり

- 土地の一部が地下水等に起因して滑る事前現象又はこれに伴って移動する自然現象

全体箇所数	指定済箇所数
7,983	7,777

(令和4年2月末現在)

- 令和元年9月に公表した箇所は、令和3年度末までに概ね指定完了。

- 令和4年度以降も引き続き、既指定区域の見直しや新たに危険とわかった箇所などの基礎調査や区域指定を推進していきます。



説明会の状況

土砂災害警戒区域等の指定にあたっては、地域の方等を対象に説明会等を実施しています。

進捗状況総括表

事業名	完成目標年	全体数	※R3.3末現在				※R3.9末現在								
			着手		完了		着手		完了						
			件数	着手率	件数	完了率	件数	着手率	件数	完了率					
①改良復旧事業及び災害復旧事業の推進															
改良復旧事業(助成)	R 5	3河川	3	3	3	57.0%	0	0.9%	3	3	3	62.8%	0	0.9%	※1
改良復旧事業(関連)	R 3	5河川	5	5	5	39.9%	0	0.0%	5	5	5	78.9%	0	1.0%	※1
災害復旧事業	R 3	1411箇所	-	-	1218	86.3%	462	32.7%	-	-	1406	99.6%	870	61.6%	※3
②河川の河道掘削及び伐木の推進															
河道掘削	R2~R6	231箇所(R2)	-	-	222	96.1%	125	54.1%	-	-	230	99.5%	173	74.8%	※3
		243箇所(R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	101	41.5%	45	18.5%	※3
③河川改修及び堤防強化の推進															
緊急的改修	R 3	78河川	-	-	78	100.0%	34	43.5%	-	-	78	100.0%	47	60.2%	※3
一定区間改修	R 6	7河川	7	7	3	13.4%	0	0.0%	7	7	7	38.9%	0	0.9%	※1
堤防強化	R2~R6	97箇所(R2)	-	-	97	100.0%	17	17.5%	-	-	97	100.0%	20	20.6%	※3
		113箇所(R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	40	16.4%	11	4.5%	※3
④土砂災害対策の推進															
災害関連事業	R 3	2箇所	2	-	2	98.1%	0	4.2%	2	-	2	98.1%	0	35.6%	※2
土砂災害対策事業	R 6	172箇所	-	-	88	51.1%	27	15.6%	-	-	172	100.0%	40	23.2%	※3
⑤危機管理型水位計の設置拡大															
水位計の設置	R 6	409箇所	-	-	-	-	371	-	-	-	-	-	371	90.7%	※4
⑥河川監視カメラの設置拡大															
監視カメラの設置	R 6	156箇所	-	-	-	-	70	-	-	-	-	-	91	58.3%	※4
⑦洪水浸水想定区域の公表前倒し・拡大															
区域公表	R 6	63箇所	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-	36	57.1%	※4
⑧福島県流域総合情報システムのサーバー強化															
システム強化	R 3		R2.11月に完了				R2.11月に完了								
サーバー強化			-				-								
⑨ダムにおける事前放流に向けた体制構築															
事前放流体制構築	R 2	10ダム	-	-	-	-	10	100.0%	-	-	-	-	10	100.0%	※4
⑩土砂災害警戒区域の指定の推進															
区域指定の推進	R 3	7983箇所	-	-	-	-	6964	87.2%	-	-	-	-	7085	88.7%	※4

【着手率、完了率の考え方】

- ※1 着手率=契約額/全体事業費 完了率=完成延長/全体計画延長
- ※2 着手率=契約額/全体事業費 完了率=完成額/全体事業費
- ※3 着手率=着手済箇所数/全体箇所数 完了率=完了箇所数/全体箇所数
- ※4 完了率=完了箇所数/全体箇所数



水災害対策協議会の状況

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

令和元年東日本台風に伴う洪水により、阿武隈川本川や支川では堤防決壊、越水等が多発し、流域全体で甚大な浸水被害となりました。この災害を踏まえ、国を中心に関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策を実施し、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指します。

■全体事業費 約1,840億円

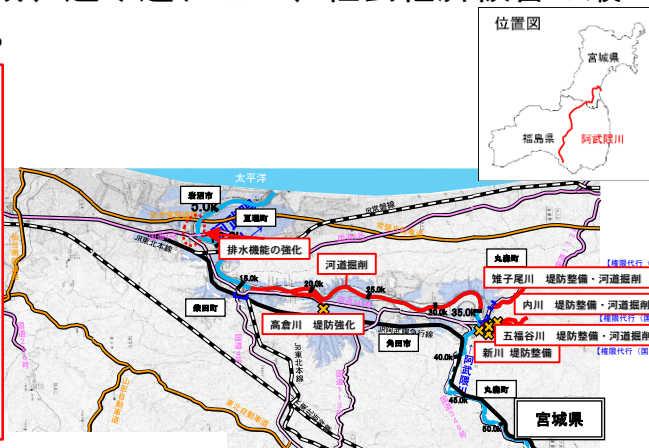
■事業種別

○改良復旧事業

国：阿武隈川上流(福島県内)
全体事業費 約999億円
事業期間 令和元年度～令和10年度
国：阿武隈川下流(宮城県内)
全体事業費 約215億円
事業期間 令和元年度～令和6年度
福島県：約66億円
宮城県：約18億円

○災害復旧事業

国：阿武隈川上流(福島県内)
全体事業費 約130億円
事業期間 令和元年度～令和2年度
国：阿武隈川下流(宮城県内)
全体事業費 約99億円
事業期間 令和元年度～令和2年度
福島県：約268億円
宮城県：約44億円



※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合があります。

※国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所 公表資料より一部抜粋

※ 最新の進捗状況は下記HPから確認できます。

<http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/abupro/3index.html>



①河川における治水対策の推進【ハード整備】 約1,840億円

■観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生

→本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

<主なメニュー案>

- ・国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進
- ・現在 実施中の「堤防整備」等の早期完成
- ・「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている「河川の水位を低下させる対策」等の順次検討・着手
- ・本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」、「準用河川」の整備促進
- ・内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- ・既存ダムの洪水調節機能強化

②減災型都市計画の展開

■沿川都市の都市化の進展により低平地の新興住宅地等での浸水リスクが顕在化

→沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

<主なメニュー案>

- ・浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開
- ・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- ・「特定都市河川」制度に準じた流域対策(例:雨水貯留施設等)
- ・高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定



雨水調整池内部の状況

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

■本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響

→的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

<主なメニュー案>

- ・支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- ・浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- ・危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- ・県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

■本川上流部では、背水が支川の氾濫にも影響

→本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

<主なメニュー案>

- ・本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等
- ・本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定



本川・支川合流部(本宮市)

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

→地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

- ・流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、マスメディアと連携した情報発信 等

福島県における 流域治水

近年、気候変動の影響による頻発化・激甚化する水災害の対策は急務です。特に福島県では、県土の広範囲に甚大な影響を与えた令和元年東日本台風等を踏まえ、様々な主体がハード・ソフトの両面で流域全体での総合的な防災・減災対策を実施していきます。

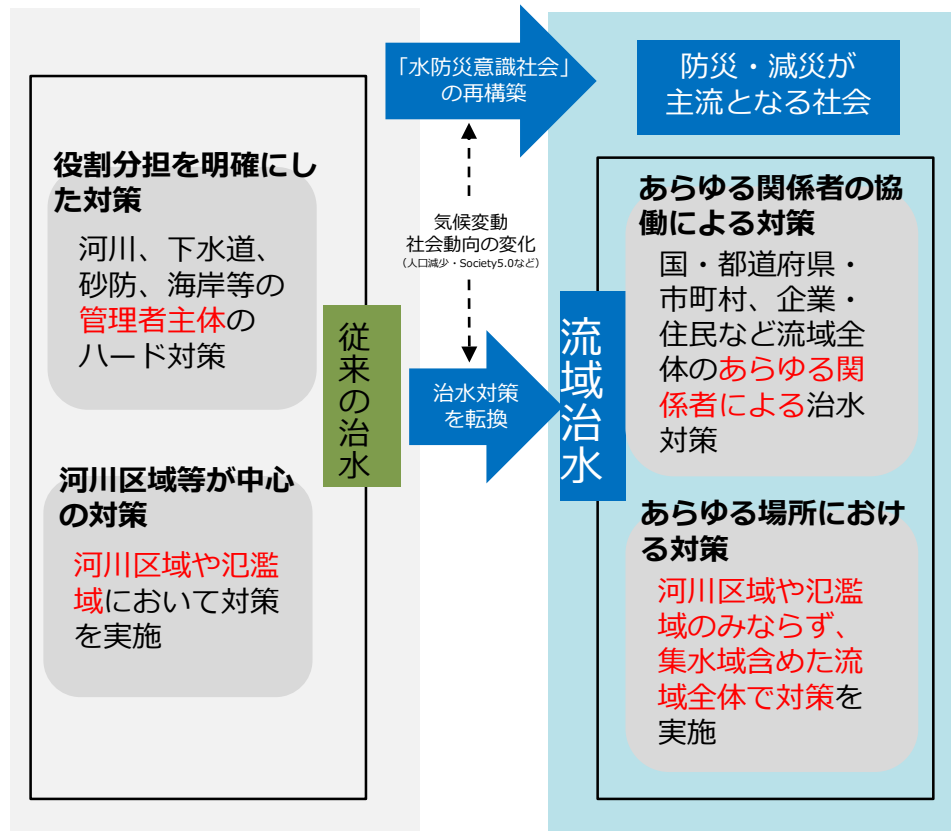
「流域治水」への転換

近年の水災害による甚大な被害を受け、施設能力を超過する洪水が発生するものへと意識を改革し、氾濫に備える「水防災意識社会」の再構築を進めてきました。

今後、この取組をさらに一歩進め、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で対応する「流域治水」へ転換していきます。

国土交通省防災・減災対策本部が設置され、令和2年7月に【あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」への転換】が示されました。

従来の治水から「流域治水」への転換イメージ



「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について 答申（令和2年7月）より」

河川、下水道、砂防、海岸等の管理者が主体となって行う治水対策に加え、その流域の関係者全員が協働して、総合的かつ多層的な取組を実施する。

「流域治水」へ転換し、あらゆる関係者(国・都道府県・企業・住民等)により、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策を多層的に推進していきます。

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○ 雨水貯留機能の拡大

- ・ 田んぼやため池等による雨水貯留

○ 流水の貯留

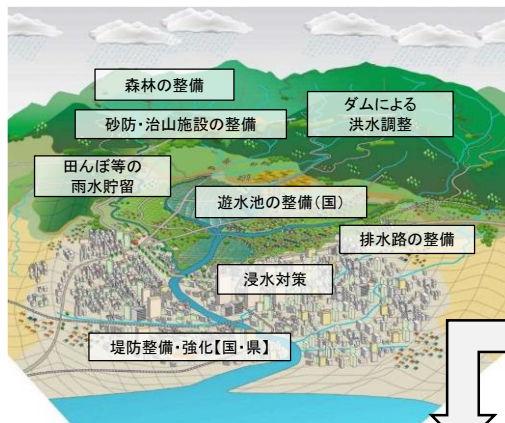
- ・ ダムによる洪水調節機能の強化
- ・ ダム管理設備の機能確保

○ 氾濫範囲を減らす

- ・ 砂防・治山施設の整備

○ 氾濫水を減らす

- ・ 河川管理施設の整備等



関連事業

■国による「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」(P.49～50) ■
令和元年東日本台風により、阿武隈川本流や支流では堤防決壊や越水等が多発し、流域全体で甚大な浸水被害となりました。国を中心に関係機関が連携し、流域全体での総合的な防災・減災対策を実施します。

■県による「福島県緊急水災害対策プロジェクト」(P.25～48) ■
令和元年東日本台風等により、一級水系阿武隈川本川や支川、二級水系の河川において、堤防決壊や越水等が多発し、流域全体で甚大な浸水被害となりました。国や市町村等の関係機関と連携し、流域全体での総合的な防災・減災対策を実施します。

②被害対象を減少させるための対策

○ リスクの低いエリアへ誘導

- ・ 水害リスクの高い地域における土地利用の規制
- ・ 水害リスクのより低い土地への居住誘導

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

○ 住まい方の工夫

- ・ 宅地嵩上げや建築物の構造の工夫

○ 被災自治体の支援体制充実

- ・ 市町村への人的支援
- ・ 災害時応援協定締結者との連携強化
- ・ 災害・復興ボランティア関係団体との連携強化

○ 経済被害の最小化

- ・ 企業の事業継続計画(BCP)策定の促進
- ・ 工業用水道施設の整備等
- ・ 工業用水道の応急復旧体制の整備
- ・ 農業集落排水施設の整備等

○ 氾濫水を早く排除する

- ・ 都市部の内水による浸水対策への支援
- ・ 食料生産基盤の整備
- ・ 農業水利施設の適正な保安全管理
- ・ 湛水防除施設の整備等

○ 土地のリスク情報の充実

- ・ 洪水対策体制の整備・洪水ハザードマップの作成支援
- ・ 都市部の内水による浸水対策への支援

○ 避難体制の強化

- ・ 雨量、河川水位、土砂災害危険度予測情報等の迅速な伝達と共有
- ・ 洪水対策体制の整備・洪水ハザードマップの作成支援
- ・ 農業用ため池の改修及びハザードマップの作成支援
- ・ 避難行動要支援者対策の推進
- ・ マイ避難の促進
- ・ 適切な避難行動の呼びかけ
- ・ 住民等への情報伝達体制の強化
- ・ 自主防災組織等の強化

【参考】流域治水プロジェクトの位置づけ

阿武隈川 流域治水プロジェクト(R3.3とりまとめ)

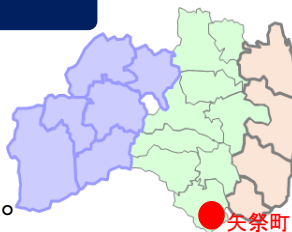
- 対象 : 国、県、流域自治体
- 河川対策 : 緊急治水対策プロジェクトに加え、当面の事業メニュー・事業費
- 流域対策 : ・雨水貯留・排水対策(下水道事業等)
- ソフト対策 : ・利水ダム等の事前放流による洪水調節可能容量の確保
- ・その他流域自治体の対策 など

阿武隈川 緊急治水対策プロジェクト(R2.1策定)

- 対象 : 国、県、沿川自治体(国管理区間)
- 河川対策 : R1～R10の10年間、1,840億円の整備(河道掘削、堤防・遊水池整備等)
- 流域対策 : ・減災型都市計画
- ソフト対策 : ・タイムライン等の防災体制
- ・水位計・カメラ等の設置による危機管理対策 など

矢祭町道(高地原橋)の災害復旧

矢祭町道(高地原橋)は、被害が甚大で緊急性が高いことから、矢祭町と覚書を締結し、県が橋梁の復旧工事を進め、令和3年11月27日に供用いたしました。



被災箇所全景



被災状況及び完成状況



※仮橋撤去中(矢祭町発注工事)

開通式・引渡式

高地原橋の完成に伴い、矢祭町による「開通式」が執り行われました。

なお、開通式に先立ち、「引渡式」において、県から矢祭町へ、工事完成図書等の引き継ぎを行いました。



現場見学会

将来の建設業を担う人材育成を目的に、地域の小学生を対象とした現場見学会(建機試乗や橋梁床版への寄せ書き等)を開催し、建設業に対する興味や関心を高める活動を行いました。

